

中日SDGsフェアにて本学の学習支援サークルが発表しました！

2026年8月19日（水）にウインクあいちにて「中日SDGsフェア（主催：中日新聞社）」が開催されました。本イベントは、様々な大学のSDGsに関する活動報告に加え、各種団体や企業が取り組む活動紹介やワークショップを通じて、市民の皆さまにSDGsを身近に感じ、楽しく理解してもらうことを目的としたイベントです。

本学からは、学習支援サークル「つばめ」が「教育格差は、隣の家でも起きているー大学生が届ける無料塾プロジェクト」と題し、取り組み内容について発表しました。「つばめ」は経済的・家庭的背景に関わらず、安心して過ごせる居場所づくりを目標に掲げて活動する本学の学習支援サークルであり、地域の小・中学生向けに無料の学習支援を行うほか、地域子ども食堂と提携して子ども達に食事を提供したりしています。

当日は、設立の目的や活動内容のほか、今後の展望などについて発表しました。また、多くの方々にブースにお立ち寄りいただき、本学の学生が主体となりSDGsに取り組む活動を多くに皆様にご紹介することができました。



発表の様子



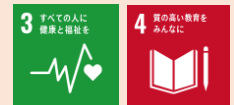
ブース出展の様子

ひらめき★ときめきサイエンスを開催しました！

2026年8月1日（土）に「ひらめき★ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI」を開催しました。本プログラムは日本学術振興会（JSPS）の科研費で行われている最先端の研究成果に、直に見る、聞く、触れることで、科学のおもしろさを感じてもらう小・中・高校生向けのプログラムです。

今回は小学生23名を対象に、医学研究科 篠原務講師より「心臓と血管の謎を解き明かせ！未来の科学者たちへの挑戦状」と題した講義を行いました。

参加者は聴診器による心音聴取や、人体模型を使ったカテーテルの体験などを通じ、最先端の研究を見て・聞いて・触れることで、心臓と血管の仕組みや役割についての理解を深めました。参加者からは「普段触れることのない医療機器を操作することができて良い経験になった」「学校では経験できないことばかりで良い刺激になりました」などの意見をいただき、未来の科学者たちへ自分の進路を考えるきっかけを提供することができました。



プログラムの様子

SDGs関連イベントに参加します！

2026年11月に以下のSDGs関連イベントが開催され、本学も参加いたします。ブースを出展して本学のSDGsの取り組みを紹介するほか、経済学研究科の濱口ゼミによるワークショップを行います。

①SDGsフェスティバル in 名古屋丸の内

日 時：2026年11月2日(月)10:00～14:00
場 所：名古屋東京海上日動ビルディング
出展者：SDGsセンター
主 催：東京海上日動火災保険株式会社
株式会社十六フィナンシャルグループ

②SDGs AICHI EXPO ～SDGs子ども・ユースフェア～

日 時：2026年11月7日(土)、8日(日)
両日とも10:00～17:00
場 所：愛知県国際展示場（常滑市）
出展者：経済学研究科 濱口ゼミ（7日のみ）
SDGsセンター（両日）
主 催：愛知県 他



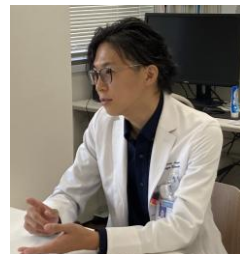
本学の研究や取り組みとSDGsとのつながりを紹介するコラムです。

第9弾として医学研究科 呼吸器・小児外科学分野の渡邊拓弥先生の取り組みをご紹介します！

より良い治療を追求し、提供し続ける！

患者さんにより良い治療を届けたいと思い、当時広まりつつあった「単孔式胸腔鏡手術」に興味を持ち、ドイツに留学してその手法を学んだり、国内外の病院で多くの経験を積んできました。また、自分の考えを論文というかたちで発表することにもやりがいを感じ、臨床研究にも力を注いでいます。

時代とともに医療も日々進化しているので、現状維持にとどまらず、勉強を続けることが持続可能な医療の提供に繋がるという思いから、「何事にも疑問を持つこと」を大切に医療と日々向き合っています！



渡邊拓弥先生

単孔式胸腔鏡手術とは？

単孔式胸腔鏡手術とは、2010年頃から広まった肺など呼吸器疾患の外科手術に使われる術式です。胸部に約4cmの小さな切開を1か所だけつくり、そこからカメラと手術器具を挿入して手術を行います。



POINT

患者さん目線

(複数か所の切開を必要とする従来の手術と比較して)

- ・手術時間が短く済むので身体への負担が少ない
- ・術後の痛みも少なく、早期回復が見込める
- ・傷跡が目立たない

患者さんの心身の負担軽減へ



POINT

医療者目線

執刀医には高い技術が求められるが、手術時間の短縮により、より多くの患者さんを診られたり、術式の研鑽や研究活動に充てる時間を確保できるなど医療提供体制の充実に繋がる

持続可能な医療・研究活動へ



今後の目標は？

単孔式胸腔鏡手術は決して簡単ではありません。しかし、日々発展する医療の世界で、患者さんのための低侵襲な治療を目指して技術を磨き、また術式の普及や、外科医を目指す学生が増えてほしいという思いから、今後は情報発信や教育にも力を入れていきたいです。



SDGsセンター長
林 秀敏 先生

渡邊先生は、「クリニカル・クエスト」を大切にされており、臨床の場で生じた疑問を追求されています。また、ご自身の医療の知識や経験を映像で発信するなど、何事にも全力投球の姿勢に感銘を受けました！また、渡邊先生のお話を伺い、低侵襲な手術は、患者さんの負担軽減や早期回復はもちろんのこと、人手不足の医療現場を支え、持続可能な医療の実現に寄与する好循環のかたちと感じました。

お問い合わせ

名古屋市立大学SDGsセンター事務局
(経営企画部企画課内)

〒467-8601 名古屋市瑞穂区瑞穂町字川澄 1

Tel : 052-853-8806

Mail : ncu-sdgscenter@sec.nagoya-cu.ac.jp

<https://www.nagoya-cu.ac.jp/sdgscenter/>

